

社会デザイン工学科学学生が文部科学省主催第 2 回サイエンス・インカレに出場します！

文部科学省主催第 2 回サイエンス・インカレ研究発表会に、下記の通り工学部社会デザイン工学科 3 年次生の 3 人の研究成果が選抜されました。これらの研究成果について、平成 25 年 3 月 2 日（土）、3 日（日）に幕張メッセで発表を行います。

サイエンス・インカレは全国の自然科学分野を学ぶ学生の課題設定能力、課題探求能力、プレゼンテーション能力、学生の意欲を高め、また、自主研究の成果を発表し切磋琢磨する場として本年度から開催されるものです。全国の多数の応募者の中から事前の書類審査で口頭発表部門 48 件程度およびポスター発表部門 100 件程度が選抜されて、研究発表会が行われます。

【口頭発表部門】

坂田 智美さん、宮崎 耀平君

研究題目：震災がれきに願いを。～私達が提案する復興デザイン～

研究概要：東日本大震災で発生した震災がれきのうち、可燃物・不燃物をふるいわけた後の残余物（復興資材）には、津波による高濃度の塩分や木片等の有機物が大量に混入している。そのためこれら復興資材を利用する際は、土壌の塩害、有機物の腐敗・腐食による地盤沈下等の問題が考えられる。そこで本研究では、復興資材の材料試験を行いその性状を把握し、“復興資材を土木資材としてうまく活用していく”にはどうすればよいか検討した。また得られた結果をもとに、自分たちが考える災害廃棄物の処理フローの提案を行った。

【ポスター発表部門】

竹尾 美幸さん

研究題目：TAKE take 重金属 ～竹をいつ使うの？今でしょ！！～

研究概要：2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災によって東北地方を中心に莫大な被害を受けた。福島第一原子力発電所の事故をきっかけに、日本全ての原子力発電所が一時停止に追い込まれた。その為、代替エネルギーの一つとして火力発電の需要が増加している現状にある。火力発電の需要が増えると多くの石炭灰が排出されるため、これらの石炭灰の有効利用を促進することが求められている。そこで、重金属を多く含む石炭灰を新しい方法で有効利用することができないかについて提案を行う。本検討では、石炭灰として排出された廃材を、有効利用が求められている竹廃材と混合させることで重金属を抑えることが出来ないかについて検討を行った。

【お問い合わせ】

工学部社会デザイン工学科 道路土質研究室 教授 佐藤研一

TEL:092-871-6631（内線 6464）